

頁主介紹

履 歴	
学 歴	
年 月	事 項
昭和 50 年 09 月	厦門大学外国言語文学部日本語学科入学
昭和 53 年 08 月	厦門大学外国言語文学部日本語学科卒業
昭和 55 年 09 月	厦門大学外国言語文学研究科現代日本語学専攻修士課程入学
昭和 57 年 07 月	厦門大学外国言語文学研究科現代日本語学専攻修士課程修了
昭和 58 年 09 月	日中文化交流特別計画・北京語言学院日本語教師研修センター研修(1年)
昭和 58 年 11 月	文学修士の学位取得(吉林大学・第 83045 号)
昭和 61 年 10 月	九州大学文学部言語学科研究生(昭和 63 年 3 月まで)
昭和 63 年 04 月	名古屋大学文学研究科日本言語文化学専攻修士課程入学
平成 02 年 03 月	名古屋大学文学研究科日本言語文化学専攻修士課程修了
平成 02 年 04 月	名古屋大学文学研究科日本言語文化学専攻博士課程(後期)入学
平成 06 年 03 月	名古屋大学文学研究科日本言語文化学専攻博士課程(後期)単位取得満期退学
平成 02 年 03 月	学術修士の学位取得(名古屋大学・第 10 号)
 朱新建	
職 歴	
年 月	事 項
昭和 53 年 08 月	中国南京航空航天大学外国語学部教師(「日本語」担当)(昭和 55 年 8 月まで)
昭和 57 年 09 月	厦門大学外国言語文学部講師(「日本語」など担当)(昭和 61 年 9 月まで)
昭和 59 年 11 月	厦門大学外国言語文学部日本語科副主任(昭和 61 年 9 月まで)
平成 02 年 04 月	名古屋学院大学講師(非)(「中国語」担当)(平成 14 年 3 月まで)
平成 03 年 01 月	大学設置審議会教員組織審査判定(名古屋学院大学,兼任講師,中国語)
平成 06 年 04 月	愛知学院大学教養部外国人教師(「中国語」「中国語会話」「教養セミナー」担当)(現在に至る)
平成 07 年 04 月	名古屋外国語大学講師(非)(「中国語」担当)(平成 16 年 3 月まで)
平成 08 年 04 月	名古屋大学講師(非)(「中国語」担当)(現在に至る)
平成 08 年 04 月	名城大学講師(非)(「中国語」担当)(平成 9 年 3 月まで)
平成 10 年 04 月	愛知県立大学講師(非)(「総合中国語」担当)(平成 15 年 4 月まで)
平成 15 年 04 月	愛知淑徳大学講師(非)(「言葉とコミュニケーション」担当)(平成 16 年 3 月まで)
平成 17 年 04 月	椋山女学園大学講師(非)(「言葉とコミュニケーション」担当)
学会及び社会における活動等	
年 月	事 項
平成 02 年～現在に至る	日本言語学会会員
平成 06 年～現在に至る	日本語学会会員(国語学会より変名)
平成 06 年～現在に至る	日本中国語学会会員
平成 09 年～現在に至る	湖南師範大学客員教授
平成 09 年～現在に至る	茉莉花二胡合奏団顧問・二胡奏者
平成 10 年～現在に至る	厦門大学日本語教育センター海外研究員
平成 10 年～現在に至る	長沙大学客員教授
平成 11 年～現在に至る	愛知学院大学バスケットボール部監督
平成 16 年～現在に至る	日中総合文化藝術協会会長
平成 17 年～現在に至る	日本二胡学会会員

教 育 研 究 業 績

著書,学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所与発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 「日語語音学」	単	昭和 60 年 9 月	厦門大学出版社	本書は日本語学科の日本語音声学講義のために編纂した教材である。 306 頁。
2. 「新編日語教材」	共	昭和 60 年 9 月	厦門大学出版社	本書は大学や中学など日本語学科の学生用または社会人の日本語学習者向けの初級から中級までの日本語の教材である。 980 頁。担当部分:発音・アクセント <共著者>黄国雄・紀太平・李大清・朱新建
3. 「中国語 21」 CD 付	共	平成 12 年 4 月	好文出版	本書は日本の大学で中国語を学ぶ学生のための中国語入門・初級の教科書である。82 頁。担当部分:本文 <共著者>平井勝利・朱新建 (ISBN4-87220-036-5 C3087)
4. 「跟我学漢語」 CD-ROM 付	単	平成 14 年 4 月	あるむ出版	本書は日本の大学で中国語を学ぶ学生及び社会人のための中国語入門・初級の教科書である。華人でノーベル文学賞作家の高行健の小説の抜粋を閲読に。 CD-ROM 付で、パソコンで聞ける、書ける、見られる、調べられる教科書であり、日本の歌と中国の写真や動画なども豊富。著者の二胡演奏も多数あり。教科書の内容から録音、CD-ROM 製作すべて学生の要望にこたえられる手作りの教材である。120 頁。 (ISBN4-901095-17-X C1087)
5. 「跟我学漢語 Let's Study Chinese1」 (新版) CD-ROM 付	単	平成 16 年 4 月	あるむ出版	上記「跟我学漢語」の新版。入門・初級・準中級の中国語教科書である。本文の会話文に英語訳付。音節ごと漢字入りの「普通話北京語音表」、「中国主要語言分布及漢語方言図」、「春季学期模擬考試」、「秋季学期模擬考試」などを付録としている。教科書の内容をインターネットにて公開中。125 頁。 http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~molihua/ (ISBN4-901095-48-X C1087)
(学術論文) 1. 「共通語アクセントの研究」	単	昭和 57 年 6 月	厦門大学・吉林大 学に提出	本論文は、日本語の共通語アクセントについて、先行研究の成果をふまえて、アクセントの研究を概観し、品詞の類分けに沿って日本語のアクセントの規則性について論じ、中国語話者が日本語のアクセントを習得する際の困難点を解決しようとしてまとめた修士論文である。152 頁。
2. 「格助詞の的音調	単	昭和 58 年 6 月	商務印書館 『日語学習』 1983 年 第 1 期	本論文は、中国の日本語学習者を対象に、日本語の格助詞「の」のアクセントについてその特徴、用法などについて書いたものである。4 頁。
3. 「独立性小的音拍与音調的關係」	単	昭和 59 年 8 月	商務印書館 『日語学習』 第 3 期	本論文は、修士論文から抜粋し発表したものである。中国の日本語学習者を対象に日本語の特殊な拍のアクセントの性格、特徴、用法について書いたものである。11 頁。

教 育 研 究 業 績

著書,学術論文等の 名称	単 著・ 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所与発 表雑誌等又 は発表学会 等の名称	概 要
4.「現代日本語アクセント史」	単	昭和 60 年 6 月	国際交流基金 『日本語教育 研究』	本論文は、明治時代の山田美妙をはじめ、現代(1980年代)までの日本語に関する研究や論著,成果及び研究者について、時代の流れに沿って批判を加えながら中国の日本語教育関係者を対象に書いたものである。 4 頁。
5.「中国語厦門方言の頭子音 b/m,l/d/n,m/g について」	単	昭和 63 年 1 月	九州大学文学 部言語学科に 提出	本論文は,中国語厦門方言の音韻体系に見るいくつかの特殊な音素について,インフォーマントによる調査資料をもとに,音韻論の見地から分析を加えてまとめたものである。25 頁。
6.「厦門語の歯茎子音と日本語の歯茎子音との比較研究」	単	平成 2 年 1 月	名古屋大学に 提出 (修士論 文)	本論文は,厦門語話者が日本語の発音を習得する際の困難点に視点を置いて,先行研究を概観し批判を加え,厦門語と日本語の歯茎子音の実態と相違点を明らかにした上で,厦門語話者の日本語発音の習得のための教授法を論じたものである。142 頁。
7.「厦門語話者の日本語発音の問題点」	単	平成 3 年 2 月	名古屋大学に 提出 (D1 認定論 文)	本論文は,教授法開発のために日本語発音の全般にわたり,初心者から上級者までの被験者による被験資料を分析し,厦門語話者の日本語発音の問題点を明らかにしてまとめたものである。79 頁。
8.「厦門語話者の日本語アクセントの問題点」	単	平成 4 年 3 月	名古屋大学に 提出 (D2 認定論 文)	本論文は,厦門語の声調と日本語のアクセントの記述を再確認し,厦門語話者が日本語のアクセントを習得する際の問題点とその原因の所在を明らかにしたものである。62 頁。
9.「厦門語と日本語の音声の比較」	単	平成 4 年 3 月	人文科学研究 21 号 名古屋大学に 提出 (D3 認定 論文)	本論文は,教授法開発のために厦門語話者の日本語発音の問題点を分析した上で,厦門語の音声の記述と日本語の音声の記述を再確認し,その相違点を明らかにし,厦門語話者が日本語の発音を習得する際の困難点を体系的に示したものである。28 頁。
10.「中国語と日本語の音声の比較—中国語学習者の発音とヒヤリングの指導のために」	単	平成 7 年 3 月	愛知学院大学 『語研紀要』 第 20 巻第 1 号	本論文は,中国語教育指導のために中国語を第 2 外国語として学ぶ日本人大学生を対象に,中国語の発音の困難点を分析し,中国語と日本語の発音の相違点を明示して母語の発音を自覚させて外国語の発音を学習する『母語利用法』を提唱したものである。 20 頁。
11.「中国語永州方言の音声—北京方言との比較研究」	単	平成 7 年 3 月	愛知学院大学 『教養部紀要』 第 42 巻第 3 号	中国語永州方言の音声の体系を明らかにし,北京方言との相違点を分析して,永州方言には/t/-tʰ/, /t/-d/のように無気と有気と,無声と有声との区別を明示した。そして同じく四声を有しながら声調のタイプは全く反対である現象についても述べたものである。 18 頁。

教 育 研 究 業 績

著書,学術論文等の の名称	単 著・ 共 著 の別	発行又は発表 の年月	発行所与発 表雑誌等又 は発表学会 等の名称	概 要
12.「中国語海口・文昌方言に見られる入破音について一厦門方言との比較研究	単	平成7年7月	愛知学院大学『教養部紀要』第43巻第1号	中国語海口・文昌方言に存在する入破音について調査資料を分析し、厦門語の入破音と比較し、入破音の発音のしくみを分析した。更に南方方言全体に入破音は存在するとの私見を述べ、今までの南方方言の音韻体系の記述に疑問を問いかけた。 25頁。
13.「現代厦門語の子音体系に関する一研究一日本語との比較」	単	平成8年3月	愛知学院大学『教養部紀要』第43巻第3号	現代厦門語の子音体系に関する先行研究はいずれも厦門語に入破音が存在するとの記述がなく、厦門語の子音体系に関する論述も不十分である。本論文は、このような先行研究の不備を指摘し、厦門語の子音に関する今までの著者の研究をまとめ、厦門語の入破音の発音のしくみを詳細に分析し、海口・文昌方言や呉方言等との関連性を指摘して、更に和歌山方言などと比較しながら、厦門語の子音体系を論じたものである。37頁。
14.「現代厦門語の母音体系に関する一研究」	単	平成8年7月	愛知学院大学『教養部紀要』第44巻第1号	本論文は厦門語の母音体系について先行研究の成果を踏まえながら、自らの言語調査による資料を分析し、厦門語の母音体系を口母音体系と鼻母音体系に分類して分析をすすめ、更に現代厦門語の口語体と文口語体の体系と現代北京語との比較をしながら、現代厦門語の母音体系の全体像を明らかにしたものである。26頁。
15.「中国語湘方言の子音に関する一考察一湘潭語と長沙語を中心に」	単	平成10年2月	愛知学院大学『教養部紀要』第45巻第3号	湘潭出身の故毛沢東主席の録音と長沙出身の被験者の録音を分析して、新湘語の子音における新派と老派の相違点を明らかにしたものである。 26頁。
16.「中国語湘方言の母音に関する一考察一湘潭語と長沙語を中心に」	単	平成10年11月	愛知学院大学『教養部紀要』第46巻第2号	湘潭語と長沙語の子音体系の研究に続く母音体系の研究である。 25頁。
17.「中国語に見られる入破音の研究」	単	平成12年3月	愛知学院大学『教養部紀要』第47巻第4号	中国語に見られる入破音について、先行研究の成果を踏まえて、筆者のいままでの研究成果をまとめたものである。付録としては先行研究数編の翻訳と入破音の歴史地図がある。 53頁。
(その他・翻訳など) 1.翻訳「一個偵探的故事」	共	昭和60年5月	広西民族出版社	赤川次郎の『探偵物語』の中国語訳本。 担当頁:p101~p204 <共訳者> 紀太平・胡金定・朱新建
2.翻訳「血色婚礼」	単	平成元年2月	厦門文学雑誌社	赤川次郎の『血のバラ』の訳本。
3.翻訳「女人国」	共	平成13年3月	愛知学院大学『教養部紀要』第48巻第3号	劉学朝著の『走進東方女人国』の日本語訳。中国の少数民族摩梭人の風習について書かれたものである。 <共訳者>朱新建・王武雲

教 育 研 究 業 績

著書,学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所与発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
4.翻訳 「日中采訪風雲録— 一位日本老記者三十五年的回憶」	共	平成 13 年 3 月	愛知学院大学『教養部紀要』第 48 巻第 4 号	元《朝日新聞》記者・アジア総局長吉田実氏著の『日中報道 回想の三十五年』の翻訳。 著者は貴重な人生体験と記者生活から如実に日中関係、日中国交正常化、日中平和条約の締結、日米関係、日台・中台関係及び香港返還問題、東南アジア諸国の問題などへの取材を基に、当時の日中を纏わる世界情勢を生き生きと再現していく。著者は毛沢東の『矛盾論』を卒論の題目にしたように非常に個性豊かな中国好きで、北京特派員時代に周恩来の会見に 50 回も取材し、ベトナム戦争の時に著者の分析を聞きたくて米英の引っ張り罫になったり、あのヤオハンに中国への進出を進言したり、パキスタン政変直前にブッド大統領に会ったり、日中国交正常化すべきだ、との池田大作創価学会名誉会長の「勇氣ある提言」を取り上げたり、中国の改革開放、香港の中国返還など様々な歴史大事件に立ち会ったり取材を続け、まさに現代日中関係発展の歴史の証人である。100 頁。(第 1 章～第 9 章) <共訳者>王武雲・朱新建
5.翻訳「日中采訪風雲録— 一位日本老記者三十五年的回憶」	共	平成 13 年 8 月	愛知学院大学『教養部紀要』第 49 巻第 1 号	上記の翻訳の続きである。 52 頁(第 10 章～第 12 章) <共訳者>王武雲・朱新建
6.翻訳「日中采訪風雲録— 一位日本老記者三十五年的回憶」	共	平成 13 年 12 月	愛知学院大学『教養部紀要』第 49 巻第 2 号	上記の翻訳の続きである。 66 頁(第 13 章～第 15 章) <共訳者>王武雲・朱新建
7.「 三十五年的新聞追蹤 」 (Web 公開中)	共	平成 15 年 8 月	香港天地図書	吉田実氏著の『日中報道 回想の三十五年』の中国語翻訳を香港天地図書より出版されたもの。 天地図書の招聘で、原著者、翻訳者ともども出席し、香港の出版界や有名人が多数出席して盛大な出版記念となり、後に香港の有力紙、雑誌に 3 週間にわたり話題として取り上げられた。(ISBN988 201 492 5)
8.編著 「二胡独奏曲 櫻花縁」CD 付	単	平成 15 年 5 月	あるむ出版	中国民族楽器である二胡ブームを受けて、二胡奏者でもある編著者が企画し、中国著名な二胡演奏家、教育家の楊長安教授に原曲を編曲依頼し、日本の二胡演奏者や中、上級学習者のために五線譜と二胡譜、及び作編曲の背景やエピソードを織り交えて編著した二胡楽譜本である。 編著者の招聘で楊長安氏が来日し、原作者者福島新一氏のご協力で東京で原作者者福島新一氏のピアノ伴奏と編曲者楊長安氏の二胡独奏のレコーディングが実現し、その貴重な音源を編著者は自ら CD/CD-ROM にし、楽譜本に添付して出版したものである。 24 頁。(ISBN4-901095-42-0 C0073)
9.教材 「跟我学中国二胡」	単	平成 15 年 3 月	あるむ出版	これは教養セミナー現代中国芸能事情で使う教材であるが、中国の民族楽器の紹介、特に二胡の構造や演奏などについて説明し、二胡楽譜や日中歌曲など 280 曲を集めた教材である。二胡の練習もできれば、日中歌曲の練習もでき、その中から日中文化の奥深さを体得することができる。二胡の教則本としても使用できる。